

6	胃潰瘍・十二指腸潰瘍	1	ある	2	ない
7	胃炎・十二指腸炎	1	ある	2	ない
8	急性または慢性膵炎	1	ある	2	ない
9	ガン 部位はどこですか	1	ある	2	ない
10	糖尿病	1	ある	2	ない
11	痛風または高尿酸血症	1	ある	2	ない
12	高脂血症または高コレステロール血症	1	ある	2	ない
13	高血圧	1	ある	2	ない
14	狭心症	1	ある	2	ない
15	心筋梗塞	1	ある	2	ない
16	不整脈	1	ある	2	ない
17	脳卒中または脳出血	1	ある	2	ない
18	脳梗塞	1	ある	2	ない
19	貧血	1	ある	2	ない
20	大腿骨骨頭壊死	1	ある	2	ない
21	外傷(骨折を伴う程度の)	1	ある	2	ない
22	頭部外傷	1	ある	2	ない
23	不眠症	1	ある	2	ない
24	うつ病	1	ある	2	ない
25	統合失調症	1	ある	2	ない
26	摂食障害	1	ある	2	ない
27	薬物依存症	1	ある	2	ない
28	ギャンブル依存症	1	ある	2	ない

29 買い物依存症

1	ある	2	ない
---	----	---	----

25 その他

1	ある	2	ない
---	----	---	----

それは何ですか

II 現在、利用している施設について、おうかがいします。

1 今回、この施設を利用し始めてから、どのくらいになりますか。

年	ヶ月	日
---	----	---

2 通所をご利用ですか、それとも入所をご利用ですか。

1	通所
2	入所
3	両方利用

通所利用、両方利用の方は〇〇ページへ、入所利用の方は〇〇ページへ、お進み下さい。

3 施設まで通うのに、時間はどのくらいかかりますか。

時間	分くらい
----	------

4 施設まで通うのに、片道の交通費はいくらくらいかかりますか。

片道

円

5 施設には、平均して1週間にどのくらい通っていますか。

1週間に	日
その他、具体的に	

6 施設に利用料を支払っていますか。

1	はい
2	いいえ

7 支払っている場合に、その額は、月額いくらですか。

月額 約

円

その他、具体的に

8 支払っている場合に、何の利用料を支払っていますか。

具体的に、

9 施設で行なわれている援助の中で、あなたにとって役に立っていると思われるものは何ですか。はい または、いいえ でお答えください。行なわれていないものは、3の行なわれていないに○をつけて下さい。

1 ミーティング

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

2 個人面接・カウンセリング

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

3 酒害教育・勉強会

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

4 自助グループのメッセージ

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

5 作業

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

6 農作業

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

7 レクリエーション

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

8 健康づくり・スポーツ

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

9 栄養指導・食事指導

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

10 生活指導

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

11 家族に対するプログラム

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

12 就労支援（仕事につくための援助）

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

13 職業訓練（仕事の技術や技能を身につける援助）

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

14 SST（社会技能訓練）

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

15 ボランティア活動

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

16 地域活動への参加

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

17 断酒に関するアドバイス

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

18 仲間づくりへの援助

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

19 規則正しい生活を送る援助

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

20 金銭管理方法に関するアドバイス

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

21 経済的不安に対する相談

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

22 日中集まれる場所の提供

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

23 昼間の例会・ミーティング

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

24 行軍およびそれに類するもの

1	はい	2	いいえ	3	行なわれていない
---	----	---	-----	---	----------

その他、役に立っている援助があれば、記入して下さい。

--

アルコール依存症の施設利用基準に関する調査

以下の項目の当てはまるところに○をつけてください(各項目一つのみ)

1. まず、回答して下さる方の職種についてお答えください

医師 ソーシャルワーカー 看護師 福祉担当者 カウンセラー
 その他(具体的に _____)

以下は調査対象者に関する質問です。

2. 性別	男性	女性
3. 年齢	(_____) 歳	
4. 施設利用の有無	入所している	通所している 利用してない
5. 住居の有無(持ち家、借家を問わず)	ある	ない
6. 収入の有無	ある	ない
7. 生活保護を受給	している	していない
8. 職業の有無(主婦、パートも含めて)	ある	ない
9. 失職の期間が1年以上	あった	なかった
10. 飲酒が原因で3回以上入退院を繰り返したことが	ある	ない
11. 親・兄弟にアルコール問題が	あった	なかった
12. 親・兄弟にアルコール以外の問題(ギャンブル、暴力、薬物など)が	あった	なかった
13. 婚姻歴は	ある	ない
14. 離婚、死別、別居の経験は	ある	ない
15. 子供は	ある	ない
16. 現在、同居者は	ある	ない
17. 親・兄弟との交流が1年以上	ある	ない
18. 婚姻者または子供との交流が1年以上	ある	ない
19. 家族と本人の関係を調整する必要が	ある	ない
20. 他者(友人や自助グループ)からのサポートが	ある	ない
21. いままで以下のような問題を抱えたことが		
1) 経済問題(借金など)	ある	ない
2) 他人への暴力・傷害事件	ある	ない
3) 飲酒運転	ある	ない
4) 家庭内暴力	ある	ない
5) 他の薬物使用	ある	ない
6) ギャンブル問題	ある	ない

22. 医学的合併症の有無について		
1) 黄疸、腹水、肝性脳症のいずれかの既往	あった	なかった
2) インスリン自己注射を	している	していない
3) 躁うつ病の合併	ある	ない
4) 統合失調症の合併	ある	ない
5) 精神発達遅滞の合併	ある	ない
6) 摂食障害の合併	ある	ない
7) 認知症の合併	ある	ない
8) 衝動性の有無	ある	ない
9) 不安の訴えが多い	ある	ない
23. 今までに3ヶ月以上断酒したことが	ある	ない
24. 断酒への意欲が	ある	ない
25. 集団への適応は	良い	悪い
26. 規則の遵守は	できる	できない
27. 自助グループへの参加は	ある	ない
28. 金銭管理は自分で	できる	できない
29. 服薬管理は自分で	できる	できない
30. 社会的手続きや公共施設の利用は自分で	できる	できない
31. 身の清潔保持は自分で	できる	できない
32. 日常生活能力は	① 社会生活は普通にできる	
	② 社会生活は困難だが日常生活は普通にできる	
	③ 日常生活に時に制限があるが、援助は不要	
	④ 日常生活に時に援助が必要	
	⑤ 日常生活に常に援助が必要	

以上です。ご回答ありがとうございました。

精神科診療所・クリニック数全国集計（都道府県）

都道府県	診療所・クリニック数	都道府県	診療所・クリニック数
北海道	39	鳥取県	6
青森県	17	島根県	18
岩手県	14	岡山県	60
宮城県	15	広島県	16
秋田県	13	山口県	32
山形県	26	徳島県	22
福島県	48	香川県	22
新潟県	19	愛媛県	31
富山県	12	和歌山県	15
石川県	5	奈良県	35
福井県	11	滋賀県	20
茨城県	42	京都府	17
栃木県	50	兵庫県	77
群馬県	43	大阪府	78
埼玉県	37	高知県	10
千葉県	63	福岡県	50
東京都	469	佐賀県	8
神奈川県	27	長崎県	28
山梨県	14	熊本県	27
長野県	36	大分県	24
静岡県	68	宮崎県	22
岐阜県	31	鹿児島県	16
愛知県	46	沖縄県	36
三重県	28	計	1843

精神科診療所・クリニック数全国集計（都道府県）

政令指定都市	診療所・クリニック数
札幌市	39
仙台市	39
さいたま市	25
千葉市	15
川崎市	24
横浜市	124
名古屋市	72
京都市	69
大阪市	124
神戸市	56
広島市	35
北九州市	46
福岡市	59
計	727

都道府県別精神病院および精神科を有する総合病院リスト

添付文書4

都道府県	一般（病床あり）	一般（病床なし）	精神	合計
北海道	58	24	66	148
青森県	9	11	14	34
岩手県	9	7	15	31
宮城県	6	8	25	39
秋田県	13	10	15	38
山形県	8	4	14	26
福島県	16	15	23	54
茨城県	15	13	24	52
栃木県	5	10	18	33
群馬県	15	6	13	34
埼玉県	24	13	43	80
千葉県	26	20	35	81
東京都	59	58	55	172
神奈川県	60	20	42	122
新潟県	21	12	19	52
富山県	3	13	18	34
石川県	8	8	13	29
福井県	2	5	10	17
山梨県	6	3	8	17
長野県	19	17	15	51
岐阜県	9	6	13	28
静岡県	20	6	30	56
愛知県	53	20	37	110
三重県	4	15	12	31
滋賀県	4	7	7	18
京都府	10	20	12	42
大阪府	23	48	40	111
兵庫県	10	43	30	83
奈良県	6	5	4	15
和歌山県	4	8	9	21
鳥取県	5	10	5	20
島根県	10	4	8	22
岡山県	6	17	21	44
広島県	12	27	31	70
山口県	3	16	29	48
徳島県	4	4	17	25
香川県	10	9	9	28
愛媛県	9	9	14	32
高知県	11	16	12	39
福岡県	44	34	60	138
佐賀県	5	2	14	21
長崎県	10	9	29	48
熊本県	8	12	38	58
大分県	4	11	24	39
宮崎県	9	3	17	29
鹿児島県	13	10	38	61
沖縄県	11	8	13	32
合計	699	656	1058	2413

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉事業）
分担研究報告書

断酒会員のアルコールリハビリ作業所についての意識に関する調査

分担研究者 橋本勝之 全日本断酒連盟 理事長
田所溢丕 全日本断酒連盟 事務局長

研究要旨

本研究では、アルコール依存症の社会復帰施設（作業所）に関するアンケート調査の分析をした。調査対象は断酒会会員（N=10,882）である。アンケートは自記式で、1) 対象断酒会会員の社会的・家族的背景、2) 作業所に関する知識、3) 現在必要な援助、4) 断酒の危機を感じる状況、といった4セクションからなる。調査票を各地区の断酒会に送付し、記入された調査票を回収の後、久里浜アルコール症センターでPCに入力および解析を行った。回収数は6,215で回収率は57%であった。断酒会会員の作業所に対する認識、必要性等に影響を与える可能性のある要因として、断酒期間、年齢、家族構成（単身か否か）、就労状況（定職があるかないか）、通院の有無などを取り上げ、種々のクロス集計を行い、分析を試みた。その結果、断酒期間に関して一定の傾向のあることが明らかとなった。すなわち、断酒期間を横軸にとり、縦軸に種々の調査項目をとって検討してみると、通所希望、援助希望、断酒の危機等を含む多くの項目で断酒7年前後を境にして、以降はほぼ一定の値（割合）を示していた。これは、断酒を何年継続していても一杯飲めば元の本阿弥、という考えが断酒会会員に浸透していることの反映ではないかと考えられた。また、このことから通所の必要性は断酒期間とは必ずしも比例しないことが明らかとなった。これらの結果を基にして、「作業所を利用したい」と考えている断酒会員に対してその優先度を定めるための評価尺度の試案を作成した。

A. 研究目的

アルコール依存症のリハビリ施設について、その実態や必要数に関する情報はほとんど存在しない。本研究では、その必要数や施設のサービス内容に関する情報を得るために、断酒会員に対して調査を実施した。

B. 研究方法

断酒会員に対して、作業所に関するアンケート調査を以下のような方法で実施した。

1. アンケート対象者

社団法人全日本断酒連盟に所属する断酒会会員に対して調査を行なった。調査の対象者数は10,882名である。

2. アンケート調査期間

平成15年11月20日～12月19日

3. アンケート内容（アンケート用紙を資料として添付）

- ①対象者の属性—年齢・入会歴・断酒期間・家族構成・経済性（設問1～10）
- ②アルコールリハビリ作業所に関する認識（知っている、身近にあれば利用したいか）（設問11～13）
- ③リハビリ施設の利用をふまえ、現在必要な援助（設問14～27）
- ④断酒の危機を感じる時（設問28～45）

4. アンケート回収数・回収率など

断酒会管理単位別回収数・回収率を表1に示す。

全体の回収数は6,215(57%)であった。しかし、この中には項目によって、回答の不備なものもあるため、以後の分析では、その総数がこの数字より少なくなる。

5. 解析など

回収された調査票は独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センターに送付し、パーソナルコンピュータに入力された。データのクロス集計などといった解析は、Statistical Analysis System (PC用), Version 8.2 でなされた。

C. 調査研究結果

1. 都道府県別「作業所があることを知っている」について

表2に各断酒会別の「知っている割合」を示した。図1では、割合の大きい順に再配置している。この都道府県はアンケートに記入された断酒会員の住所であり、断酒会の住所とは必ずしも一致していない。「作業所があることを知っている」割合が一番高かったのは、宮城、次いで愛知、兵庫、東京、大分、大阪と続いていた。この上位6箇所は、断酒会関連の作業所が現存する所であり、この結果はこのような状況が関係しているものと思われる。

2. 地方別「作業所があることを知っている」について

地方別とは下記のとおりである。地方別グラフを図2に示す。

北海道：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北陸地方：富山県、石川県、福井県

甲信越地方：新潟県、山梨県、長野県

東海地方：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿地方：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州沖縄地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

3. 都道府県・地方別「作業所が身近にあったら利用したい」について

利用したい割合の大きい順に、図3に都道府県別、図4に地方別を示す。図3を見ると、割合が大きい県に必ずしも断酒会関連の作業所があるわけではない。事情は図4の地方別についても同様である。後述するとおり、「利用したい」という割合は、断酒期間、家族構成(単身か否か)、年齢などといった要因と関係しているようである。これらの要因は、断酒会が位置している地方・県で較差がある。例えば、60歳以上の会員が80%もいる県がある一方で、その割合が30%である県もある。そのため、このような(規則性のない)分布になったものと考えられる。

4. 「作業所があることを知っている」と断酒期間との関連

表3、図5に断酒期間との関連を示す。これによると、平均64%の会員が「知っている」と回答している。3人に2人は「知っている」ことになる。機関紙「かがり火」で作業所特集(連載もの)を2回実施した事、他の出版物でも掲載した事、などの効果が出ていると思われる。

図5に示すように、「知っている」割合は、断酒期間10年頃までは、その期間とともに上昇するが、それ以降は70~75%で一定となっている。

5. 「作業所が身近にあったら利用したい」と断酒期間との関連

表3、図6に断酒期間との関連を示す。ここでの割合は「作業所のあることを知っている」人を100%としたものである。その理由は、作業所の認識がある人達のなかから「利用したい」人の割合を調べる方が、知らない人を含めるより、より意味のあるデータを提供できると考えたからである。

図6のように、この割合も断酒期間とある程度関係があるようだ。すなわち断酒10年までは

期間が短ければ短いほど、その割合が高い傾向があった。10年を過ぎると、ほぼ一定で25%前後を推移している。断酒会では「何年やめていても、一口飲めばもとどおり」という思想がかなり徹底されている。客観的にみると作業所に通所しなくても充分大丈夫と思われる断酒20年の人でも、その人自身では「いや、まだ危ない。できれば昼の1人で居る時間、仲間とすごせれば幸いだ」と思うのではないかと、考えられる。

5. 「作業所が身近にあったら利用したい」と年齢との関連

表4、図7に年齢との関連を示す。この集計も「作業所のあることを知っている」人を100%としたものである。図7に示すように、30代前半の45%を最高として、加齢とともに「利用したい」割合は低下していく。加齢と共に断酒期間が増えるからだと思われがちだが、そうではない。上述した図6のように断酒期間10年以上の「利用したい」割合はほぼ一定であるからである。つまり断酒期間がおなじでも若い人のほうが「利用したい」という割合は総合的に見て高いということである。(詳細は次項に述べる)この理由として若い人の方が高齢者に比べてより、体力がある、仲間を求めやすい、新しいことに挑戦する気力がある、などが考えられる。

6. 「作業所が身近にあったら利用したい」と年齢・断酒期間との関連

表5、図9、図10に年齢別断酒期間、断酒期間別年齢と作業所の利用希望との関連を示す。図9によると断酒期間別利用希望者割合は、年齢が若い方がより高い傾向がある。ただし断酒期間1年未満の場合は、年齢に関わらずほぼ一定である。図10は年齢(年代)別にみた利用希望者割合であるが、断酒期間5年から20年までは年齢40歳以上でほぼ一定しており、25%前後である。利用希望者割合は断酒期間が5年未満の場合、若干の例外はあるが断酒期間が短くなるほど年代に関係なくその割合が高い傾向がある。

7. 「作業所が身近にあったら利用したい」と年齢・単身者・単身者以外との関連

表4、図8に年齢・単身者・単身者以外との関連を示す。「利用したい」と回答した者の割合は、全般的に単身者の方が10~20%多いが、30代前半においては2者の差はほとんどない。表4によると、「利用したい」平均は、単身者39%、単身者以外25%である。ここで注目したいのは、単身者50代後半の「利用したい」46%の値である。この値は単身者30代前半とほぼ同じ値である。対象該当者(サンプル数)も最大の150名(150名が100%)である。

8. 「作業所が身近にあったら利用したい」と年齢・定職有無との関連

表6、図11に年齢・定職有無との関連を示す。図11によると、定職の有無による差は、年齢が若いほど大きく加齢と共に小さくなっていく。30代前半では、その差は20%ほどある。

9. 「作業所が身近にあったら利用したい」と断酒期間・定職無との関連

表7、図12に断酒期間・定職無との関連を示す。断酒期間7年ぐらまで「利用したい」者の割合は低下していくが、7年以上はほぼ一定になっていく。

10. 「作業所が身近にあったら利用したい」と通院・断酒期間・年齢との関連

表8、9および図13、14にその関係を示す。全般的に通院グループの方が、利用希望が多い。断酒期間との関連で、非通院グループの1~5年が利用希望の割合が低いことは注目に値する。同期間の通院グループでは、5年ぐらまでは40%前後でほぼ一定である。非通院グループが低いのは、断酒1年以上になると作業所より仕事、作業所に通える余裕がない気持ち、などがその原因として考えられる。また、年齢との関連では、30代前半で非通院の者の割合が高くなっているが、サンプル数が少ないため、たまたま高くなっている可能性がある。これを除くと、

非通院では年齢に関係なく利用希望割合はほぼ一定、通院では年齢が増えるに従い割合は低下していつている。

11. 「どういった援助があれば助かるか」について

調査票の設問 14～26 に具体的な援助内容を示し、助かると思うものに○をしてもらった。回答で肯定の割合が大きい順からならべたのが、表 10、それを図示したのが図 15 である。「仲間づくりが出来たらよい」が、トップで 81%を示している。「昼間に仲間が集まれる場所があったらよい」は 53%であった。

12. 「援助件数」と断酒期間・年齢について

援助に関係した 13 項目に対して、「はい」と回答した項目数の平均値を断酒期間・年齢別に検討した（表 11、12、図 16、17）。断酒期間では 7 年以降は、その平均値はほぼ一定である。年齢では 30 代後半以降、平均値は減少傾向を示している。

年齢・断酒期間双方を考慮すると（図 19 参照）、年齢が若い方が、平均値が多い傾向がある。また、断酒期間の長短での影響はほとんど認められない。断酒 7 年以内で肯定数が 1 件増える程度である。

13. 「昼間に仲間が集まれる場所があったらよい」と断酒期間・年齢との関連

断酒期間・年齢に関わらず「昼間に仲間が集まれる場所があったらよい」と答えた人の割合はほぼ一定である。つまり断酒会会員の断酒期間・年齢に関係なく、約 55%の会員が「昼間に仲間が集まれる場所があったらよい」と思っていることである。図 22 は、断酒期間 1 年未満と 16～21 年未満の者の割合を年齢別にみているが、断酒期間も、年齢もほとんどその割合に影響を与えていないことがわかる。

本文には示していないが、他の援助内容についても、アンケート結果をみるとこの「昼間に仲間が集まれる場所があったらよい」と同じ様に断酒期間・年齢に関わらずほぼ一定の割合を

示していた。

14. 「断酒の危機を感じる時」について

設問 28～43 には、「断酒の危機を感じる」ような具体的場面が列挙されている。表 17 では、「はい」と回答した者の割合が大きい順に項目が並べられている。図 24 は表 17 を図示したものである。表のとおり、「断酒の危機を感じる」上位 3 項目は、1 位が「人間関係でストレスがあった時」、2 位が「カッとした時、イライラした時」、3 位が「1 人になった時」である。しかし、実際にはこの危機が単独で襲ってくるのではなく、各項目が複数にからみあっているであろう。

表 18、図 25 に断酒期間と上記「断酒の危機」項目にいくつ○をしたのか、との関係を示した。設問は 16 項目あるので最大は 16、最小はゼロである。断酒期間 1 年未満の人 1,173 人の平均は 6.81 項目、断酒期間 21 年以上の人は 658 人で平均 4.01 項目であった。

図 25 のグラフのカーブを見ると、断酒期間が伸びるとともにその肯定数が減少する傾向があることがわかる。また、断酒初期ではそのカーブは急峻であるが、7～8 年以降は下降速度が落ちる。一般的に断酒期間 7 年以上になれば安定して、周りもよく見えてくる。そのため自分に対して自己洞察が進むので、「断酒の危機」感が薄らいでくるのではないかと考えられる。

年齢・断酒期間別の平均項目数を見てみると（図 29 参照）、年齢が若いほど平均項目数が多い。また、おおよそ断酒 7 年以降で年齢 40 代以上の人達の平均件数はほぼ一定である（図 30）。

15. 「断酒の危機」の時間帯について

設問 45 で時間帯について聞いている。表 18、図 26 に断酒期間とその時間帯の関連を示す。時間帯としては、「夕刻から夜間にかけて」を挙げた人が多い。作業所の開所時間帯である 9～17 時を挙げた人は、断酒期間 5 年未満までが 5～10%、5 年以上になると 5%以下になってくる。表 19、図 27 に、家族構成（単身者・単身者以外）と時間帯の関連を示す。それによると、単

身の方が、特定された時間帯に○をした割合がやや多い傾向があるが、単身者以外との差は小さかった。

表 19、図 28 に、就労状況（定職の有無）と時間帯との関連を示す。それによると、定職無の人の方が、昼間の時間帯を挙げた割合が多かった。それ以外は、いずれの時間帯においても就労状況間で大きな差異は見られなかった。

16. 「断酒の危機・ひとりになった時」と断酒期間、年齢との関連

表 21、図 31 に断酒期間との関連を示す。それによると、「ひとりになった時」に断酒の危機を感じるのは、断酒期間 1 年未満では約 60%、以後断酒期間 7 年くらいまでその値は低下し、7 年以上では 40% とほぼ一定となる。すなわち断酒期間 7 年の人も、21 年以上の人も同じ割合で危機感を感じていることになる。もちろんこれは客観的評価でなく、あくまで主観的にその人が感じることであるので、ほんとうにその人が 1 人になったら危ないということではない。ただ本人が「1 人になった時は危ないぞ、気をつけよう」と感じていると考えられる。

表 22、図 32 に年齢との関連を示す。これによると、年齢が増すごとに危機感を感じる割合は低下している。年齢を増すごとに断酒期間が増えるからか、と思いがちであるが、上述したように断酒期間 7 年以上はほぼ一定であるため、この考えは的を得ていない。やはり若い人のほうが、1 人になった時危機感を感じやすいということである。図 33 によると断酒期間 1 年未満では、年齢が若いほど「一人になった時」に断酒の危機を感じる人が多い。このことは、若い人の方が 1 人になった時、再飲酒しやすい、ということではない、ことに注意する必要がある。

D. まとめと考察

1. 結果のまとめ

1) 「作業所を知っている」割合は作業所がある地域に高い。全国平均は約 64%、3 人に 2 人は知っていることになる(表 2、図 1 参照)。

- 2) 「作業所を利用してみたい」地域には、都市、作業所がある、断酒会活動が活発、等の要因を予想したが、そのような関連は認められなかった(図 3 参照)。
- 3) 全国の断酒会にはいまだに地域較差がある。例えば会員数、年齢(高齢者割合)、単身者割合などで大きな差異がある。上記 2 は、この較差と関係していると考えられた。
- 4) 「作業所を知っている」割合と断酒期間との関連—断酒 1 年未満でも 2 人のうち 1 人は知っている。ただし断酒期間 21 年以上でも、「知らない」人が 4 人に 1 人いることは今後の課題である(表 3、図 5 参照)。
- 5) 「作業所を利用してみたい」割合と断酒期間との関連では、断酒期間が増えるごとにこの割合が低下するわけではないことが明らかとなった。すなわち、断酒期間 7 年ぐらからはほぼ一定の 25% 前後であった(表 3、図 6 参照)。
- 6) 年齢が若いほど作業所を利用したい割合が大きいようだ。これは若い人ほど仲間を欲しがっている、新しいことに挑戦できる、体力がある、などという要因と関係していると考えられた(表 4、図 7 参照)。また、年齢・断酒期間別の利用割合をみると(図 9、10 参照)、断酒 1 年未満においては若年層(30—40 代)と中年層(50—60 代)には差がなかった。
- 7) 作業所の利用に関して単身者とそれ以外を年齢別にみると、30 代前半ではこの 2 者にほとんど差がなかった。ただしそれ以外の年齢層では差異がみられた。このことから、30 代前半の若い人は単身者でなくても仲間の必要性を求めていることがうかがい知れた(表 4、図 8 参照)。
- 8) 作業所利用希望者割合は、定職有より定職無の人の方が大きい。その差は加齢と共に縮まっていた。それは、定職有の人では年齢にかかわらずその割合に大きな変化がないのに対して、無の人は若くなるに従って割合が高くなるからである(表 6、図 11 参照)。

- 9) 通院・非通院と作業所利用希望は、通院グループの方がその割合は高い。非通院グループの比較的断酒期間が短い1～5年において利用希望の割合が低かった(図13)。これは早く社会復帰をしようとする気持ちの顕れではないかと推察された。もしそうであれば、この「焦り」は危険な兆候と考えられる。
- 10) ある特定の援助項目に対して、それを望むと応えた人の割合は、断酒期間や年齢に関係してなかった(図20、21参照)。これは、自身が置かれた環境からではなく、自分が所属している会、もしくはあるグループを頭に入れて記入したのではないかと想定される。たとえば、客観的に「断酒会に昼間仲間が集まる場所があればいいな」と考え、回答した結果なのではないかと思われる。また、13項目ある援助項目に「はい」と答えた合計項目数は、断酒期間に関わらずほぼ一定していた。いかなる期間断酒していても、本人には危機感があるので援助を求めようとするのであろう(図16)。一方、年齢との関連では、やはり若い人ほど援助を求める傾向が強い(図17)。断酒期間別に見ても、この年齢との関係は明らかであった(図18参照)。
- 11) 「断酒の危機」項目の肯定数の平均値は断酒初期では断酒期間とともに下降していたが、断酒期間約7年以上ではほぼ一定となる。これは、断酒会では「何年やめても飲めば元の木阿弥」という考えが浸透しているからと思われる。つまり断酒の危機感を感じる・注意する、ということであり、むしろ危機感を感じない人が危ないとも言える。
- 図30によると、おおよそ断酒7年以上・年齢40代以上の断酒の危機平均肯定数は、ほぼ一定になる。一応断酒生活が安定する目安として、断酒7年以上・40代以上という区切りが仮定できる。
- 12) 今回横軸に断酒期間、縦軸に様々な要因をとって種々のグラフを描いてみた。その結

果、ほとんどのグラフが断酒期間7年前後(6～8年)で、断酒期間1年未満から右下に低下したカーブが、水平に近くなることわかった(図6、図10、図12、図16、図20、図25、図26、図30、図31、図34参照)

このことは、おおよそ断酒期間7年を超えると、考え方が落ち着いてきて一定の生活を続けるようになることを反映しているのではないかと推測される。

表24. 作業所に関して断酒期間1年以上2年未満の者と16年以上21年未満の者の比較

調査項目	1～2年	16～21年	参照表
作業所が身近にあったら利用したい (作業所を知っている人の中で)	33.24%	22.83%	表3
上記利用希望(通院しているグループ)	41.38%	36.84%	表8
上記利用希望(通院していないグループ)	19.44%	22.76%	表8
13件の援助項目に「はい」と言った数	7.09	6.18	表11
昼間に仲間が集まる場所があったらいい「はい」	53.53%	54.09%	表14
16件の断酒の危機項目に「はい」と言った数	6.15	4.21	表18
断酒の危機 ひとりになった時「はい」	51.92%	39.01%	表21

- 13) 当初予測していたより、各調査項目に対して断酒期間の長短の影響は少ないようであった。特に上述したように断酒期間7年以上は多くの項目において、その割合や平均値はほぼ一定になっていた。

「あれば助かる援助項目」「断酒の危機とを感じる項目」に長短に大きな影響をうけなかったのである。表24に各調査項目に対し

での、断酒期間 1～2 年未満と 16～21 年未満の両者を比較してみる。

2. どのような人が作業所を利用すべきなのか

本研究調査は通所する対象（通所するかもしれない対象）の本人にアンケートしたものである。ゆえに第三者が客観的に判断したものでなく、「身近にあれば利用したいか」と本人に聞いた結果を分析したものである。

表 25. 作業所優先度の評価試案

項目	該当点数に○	点数
断酒期間	1 - 5	5: 断酒 1 年未満 4: 1-3 年未満 3: 3-5 年未満 2: 5-7 年未満 1: 7 年以上
年齢	1 - 4	4: 年齢 35 歳以下 3: 36~45 2: 46~60 1: 61 歳以上
単身者・ 単身者以外	1・2	2: 単身者 1: 単身者以外
定職有無	1・2	2: 定職無 1: 定職有
通院	1・3	3: 通院している 1: 通院していない
合計点		

そのため、「利用したい」人達の中で優先度を決める目安を点数化できるのではないかと考えた。本調査結果を基にその試案を作成した（表 25）。合計点数は最大 16 点、最小 5 点である。点数が多いほど優先度が高い。この試案の妥当性については、今後検討されなければならない。

3. 作業所の持つべき機能について

これは考え方に 2 つあると思う。ひとつは対象者が、望む、望まないにかかわらず、作業所

の機能はこうあるべきだ、ということを決める方法、もう一つは、対象者の希望を聞いてそれに沿うことである。現実には上記 2 方法の折衷案が実施される場合が多いと思われる。

今回は対象者が望む「支援」「断酒の危機」について年齢別・断酒期間別に調査しているので、対象者の希望という点での、データを提供できると考える。

E. 研究発表

1) 国内

口頭発表 0 件
 原著論文による発表 0 件
 それ以外の発表 0 件
 主な発表
 論文: なし
 学会: なし

2) 海外

口頭発表 0 件
 原著論文による発表 0 件
 それ以外の発表 0 件
 主な発表: なし

F. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む。）

1. 特許取得: なし
2. 実用新案登録: なし
3. その他: なし

表1. 全国断酒会
アンケート回収率

	断酒会名	男性	女性	会員 合計	アンケート 配布数	アンケート 回収数	アンケート 回収率
1	(社)北海道断酒連合会	709	86	795	795	510	64%
2	青森県断酒連合会	25	2	27	27	26	96%
3	秋田県断酒連合会	15	0	15	15	15	100%
4	岩手県断酒連合会	35	5	40	40	29	73%
5	山形県断酒連合会	18	8	26	26	16	62%
6	(N)宮城県断酒会	85	6	91	91	70	77%
7	福島県断酒しゃくなげ会	129	11	140	140	89	64%
8	(N)茨城県断酒つくばね会	107	2	109	109	83	76%
9	(社)栃木県断酒ホトギス会	184	13	197	197	117	59%
10	(社)埼玉県断酒新生会	318	26	344	344	166	48%
11	千葉県断酒連合会	280	20	300	300	155	52%
12	(N)東京断酒新生会	592	25	617	617	234	38%
13	東京多摩断酒連合会	65	4	69	69	32	46%
14	川崎断酒新生会	61		61	61	0	0%
15	横浜断酒新生会	162	28	190	190	87	46%
16	横須賀断酒新生会	27		27	27	0	0%
17	大和つくし断酒会	36		36	36	25	69%
18	相模原断酒新生会	19		19	19	19	100%
19	鎌倉逗子断酒会	20		20	20	12	60%
20	湘南地区断酒協議会	113		113	113	61	54%
21	新潟県断酒連合会	216	17	233	233	0	0%
22	(N)富山県断酒連合会	69	4	73	73	50	68%
23	石川県断酒連合会	41	6	47	47	32	68%
24	福井県断酒連合会	16	0	16	16	13	81%
25	福井県わかさ断酒会	6	0	6	6	5	83%
26	(N)山梨県断酒会	61	6	67	67	47	70%
27	(N)長野県断酒連合会	117	9	126	126	106	84%
28	(社)静岡県断酒会	537	27	564	564	367	65%
29	(N)愛知県断酒連合会	518	50	568	568	357	63%
30	岐阜県断酒連合会	63	2	65	65	39	60%
31	(社)三重断酒新生会	216	14	230	230	93	40%
32	滋賀県断酒同友会	107	6	113	113	94	83%
33	京都府断酒連合会	331	11	342	342	249	73%
34	奈良県断酒連合会	156	12	168	168	105	63%
35	和歌山県断酒連合会	150	10	160	160	75	47%
36	(社)大阪府断酒会	1,229	82	1,311	1,311	693	53%
37	兵庫県断酒連合会	511	49	560	560	386	69%
38	(N)岡山県断酒新生会	268	18	286	286	149	52%
39	(N)岡山県津山断酒新生会	42	4	46	46	0	0%
40	広島県断酒会連合会	322	31	353	353	287	81%
41	鳥取県断酒連合会	126	2	128	128	83	65%
42	(社)島根県断酒新生会	258	4	262	262	186	71%
43	(N)山口県断酒連合会	189	9	198	198	135	68%
44	(社)香川県断酒会	153	5	158	158	80	51%
45	(N)徳島県断酒会	82	9	91	91	36	40%
46	(社)高知県断酒新生会	86	1	87	87	17	20%
47	高知県断酒友の会	10	1	11	11	0	0%
48	南四国断酒会	17	3	20	20	15	75%
49	土佐断酒会	21	2	23	23	14	61%
50	幡多断酒会	10	0	10	10	0	0%
51	(N)愛媛県断酒会	133	9	142	142	83	58%
52	(社)福岡県断酒連合会	142	12	154	154	75	49%
53	北九州断酒友の会	117	16	133	133	71	53%
54	福岡断酒友の会	57		57	57	34	60%
55	久留米市断酒会	8		8	8	8	100%
56	豊前断酒友の会	4		4	4	0	0%
57	行橋断酒友の会	13		13	13	0	0%
58	浮羽断酒会	16		16	16	7	44%
59	佐賀県断酒連合会	28	8	36	36	27	75%
60	長崎県断酒連合会	218	13	231	231	116	50%
61	(社)大分県断酒連合会	112	3	115	115	90	78%
62	向井病院断酒友の会	10	0	10	10	0	0%
63	(N)熊本県断酒友の会	208	13	221	221	168	76%
64	(社)宮崎県断酒友の会	64	2	66	66	48	73%
65	鹿児島県徳之島断酒会	5	0	5	5	0	0%
66	名瀬断酒友の会	4	1	5	5	0	0%
67	沖縄県断酒連合会	98	10	108	108	29	27%
	合計	10,165	717	10,882	10,882	6,215	57%

表2. 都道府県別 作業所知識・利用希望

	都道府県	作業所があることを知っている			作業所が身近にあれば利用			サンプル数
		知っている	知らない	無回答	利用したい	したくない	無回答	
1	北海道	58.35%	40.44%	1.21%	36.22%	53.52%	10.26%	497
2	青森	68.00%	32.00%	0.00%	36.00%	64.00%	0.00%	25
3	秋田	42.86%	57.14%	0.00%	50.00%	35.71%	14.29%	14
4	岩手	48.28%	51.72%	0.00%	31.03%	55.17%	13.80%	29
5	山形	56.25%	37.50%	6.25%	25.00%	62.50%	12.50%	16
6	宮城	92.65%	5.88%	1.47%	45.59%	41.18%	13.23%	68
7	福島	56.47%	41.18%	2.35%	36.47%	44.71%	18.82%	85
8	茨城	36.05%	62.79%	1.16%	31.40%	53.49%	15.11%	86
9	栃木	44.34%	52.83%	2.83%	25.47%	59.43%	15.09%	106
10	群馬	30.00%	70.00%	0.00%	20.00%	70.00%	10.00%	10
11	埼玉	54.94%	44.44%	0.62%	20.99%	67.90%	11.11%	162
12	千葉	56.77%	43.23%	0.00%	22.58%	70.32%	7.10%	155
13	東京	85.38%	12.31%	2.31%	16.15%	70.00%	13.85%	260
14	神奈川	63.55%	34.98%	1.47%	21.18%	68.47%	10.35%	203
15	富山	41.18%	56.86%	1.96%	33.33%	43.14%	23.53%	51
16	石川	74.19%	25.81%	0.00%	38.71%	51.61%	9.68%	31
17	福井	29.41%	70.59%	0.00%	11.76%	70.59%	17.65%	17
18	山梨	59.57%	40.43%	0.00%	19.15%	63.83%	17.02%	47
19	長野	57.84%	42.16%	0.00%	30.39%	54.90%	14.71%	102
20	静岡	56.82%	39.77%	3.41%	19.89%	61.08%	19.03%	352
21	愛知	91.18%	7.35%	1.47%	27.35%	60.59%	12.06%	340
22	岐阜	51.16%	46.51%	2.33%	37.21%	51.16%	11.63%	43
23	三重	54.22%	43.37%	2.41%	34.94%	46.99%	18.07%	83
24	滋賀	47.73%	50.00%	2.27%	19.32%	63.64%	17.04%	88
25	京都	54.01%	43.88%	2.11%	34.18%	47.68%	18.14%	237
26	奈良	58.59%	37.37%	4.04%	38.38%	53.54%	8.08%	99
27	和歌山	63.64%	33.77%	2.59%	33.77%	55.84%	10.39%	77
28	大阪	79.13%	19.37%	1.50%	28.98%	59.01%	12.01%	666
29	兵庫	87.40%	10.80%	1.80%	22.88%	64.27%	12.85%	389
30	岡山	58.90%	39.73%	1.37%	27.40%	62.33%	10.27%	146
31	広島	59.01%	40.28%	0.71%	18.37%	67.84%	13.79%	283
32	鳥取	50.65%	45.45%	3.90%	24.68%	61.04%	14.28%	77
33	島根	63.79%	35.06%	1.15%	21.84%	66.09%	12.07%	174
34	山口	55.47%	43.07%	1.46%	29.20%	53.28%	17.52%	137
35	香川	64.10%	35.90%	0.00%	28.21%	56.41%	15.38%	78
36	徳島	58.82%	41.18%	0.00%	35.29%	50.00%	14.71%	34
37	高知	60.87%	36.96%	2.17%	21.74%	65.22%	13.04%	46
38	愛媛	58.33%	39.29%	2.38%	32.14%	54.76%	13.10%	84
39	福岡	50.81%	44.86%	4.33%	27.03%	55.14%	17.83%	185
40	佐賀	51.72%	48.28%	0.00%	48.28%	44.83%	6.89%	29
41	長崎	45.71%	52.38%	1.91%	33.33%	52.38%	14.29%	105
42	大分	81.61%	18.39%	0.00%	28.74%	55.17%	16.09%	87
43	熊本	39.61%	57.14%	3.25%	23.38%	56.49%	20.13%	154
44	宮崎	53.33%	46.67%	0.00%	44.44%	37.78%	17.78%	45
45	鹿児島	50.00%	50.00%	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%	6
46	沖縄	48.28%	51.72%	0.00%	41.38%	51.72%	6.90%	29
	合計	64.09%	34.19%	1.72%	27.50%	58.89%	13.61%	
		3869	2064	104	1660	3555	822	6037

図1. 都道府県別「作業所を知っている」割合

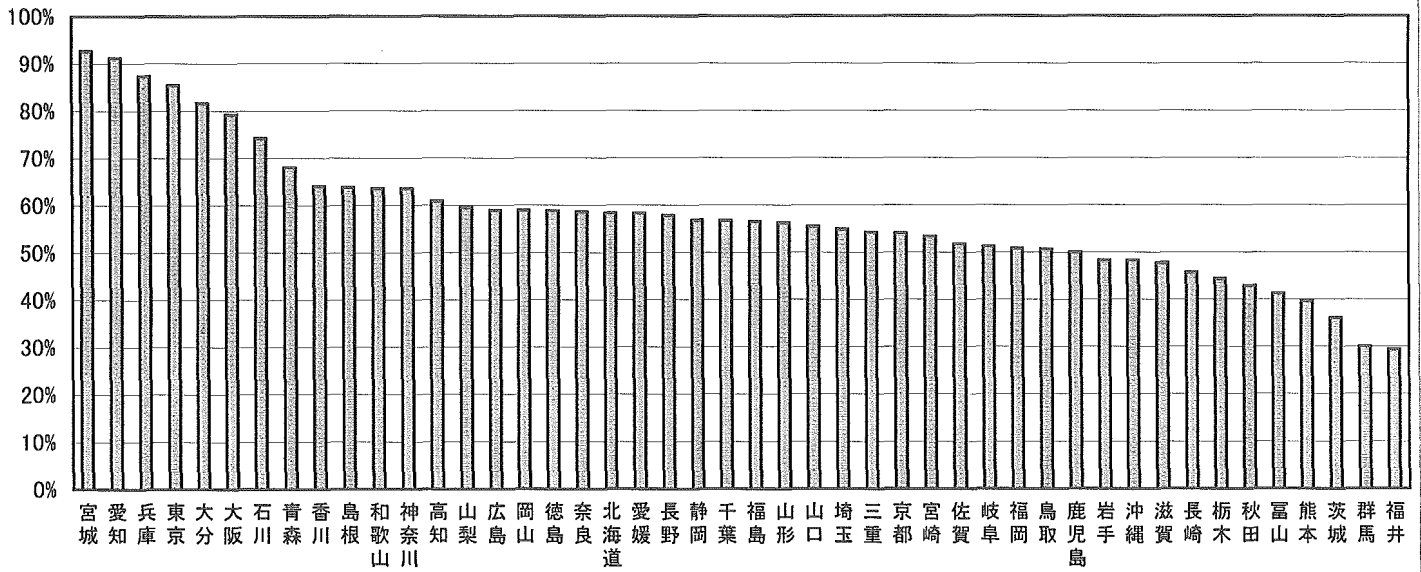


図3. 都道府県別、「作業所が身近にあれば利用したい」割合

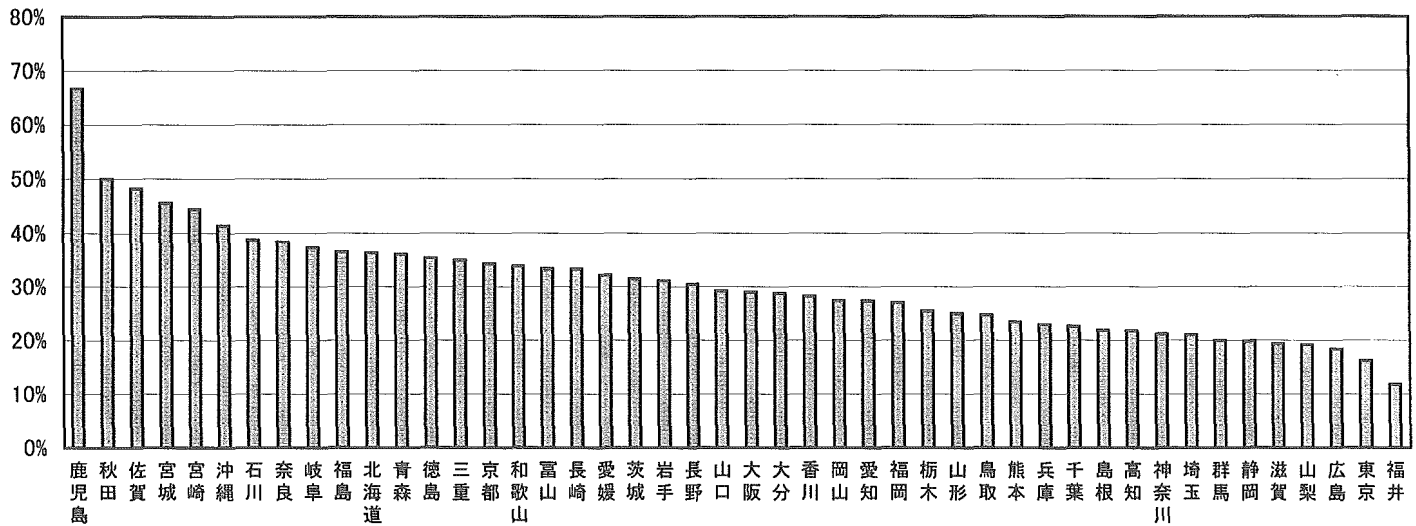


図2. 地方別、「作業所を知っている」割合

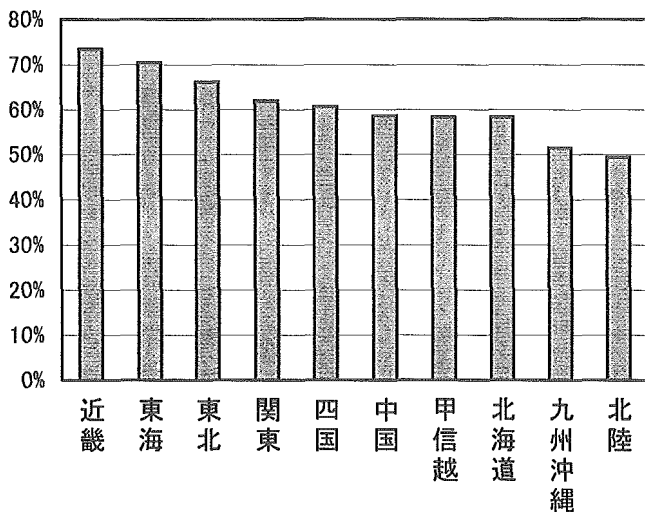


図4. 地方別、「作業所が身近にあれば利用したい」割合

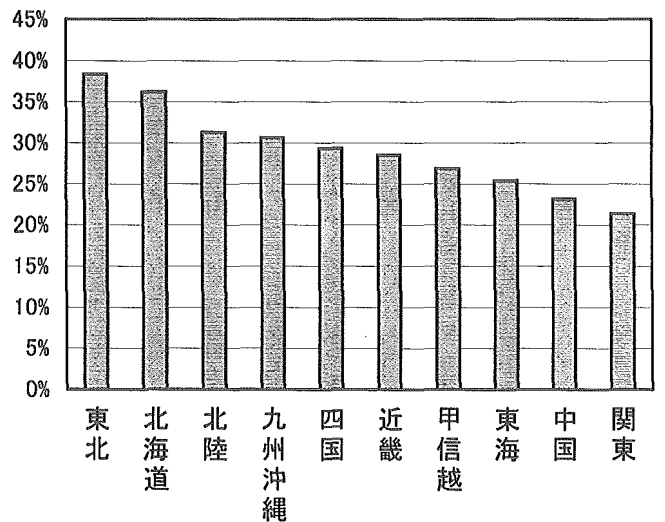


表3. 断酒期間と作業所の知識、その利用希望との関係

断酒期間	作業所があることを知っている				作業所を知っている人の中で作業所の利用について			
	知っている	知らない	無回答	サンプル数	利用したい	したくない	無回答	サンプル数
1年未満	51.24%	45.69%	3.07%	1173	33.94%	51.91%	14.14%	601
1～2年未満	54.97%	43.27%	1.76%	624	33.24%	56.85%	9.91%	343
2～4年未満	61.90%	36.43%	1.66%	903	27.91%	60.47%	11.63%	559
4～6年未満	63.68%	35.02%	1.30%	614	28.39%	60.87%	10.74%	391
6～11年未満	69.28%	28.66%	2.06%	1019	25.92%	63.03%	11.05%	706
11～16年未満	74.81%	24.59%	0.60%	663	23.59%	64.92%	11.49%	496
16～21年未満	74.57%	24.57%	0.86%	464	22.83%	66.18%	10.98%	346
21年以上	72.04%	25.23%	2.74%	658	26.37%	59.70%	13.92%	474
合計	64.01%	34.08%	1.91%	6118	27.81%	60.32%	11.87%	3916

図5. 作業所「知っている割合」と断酒期間

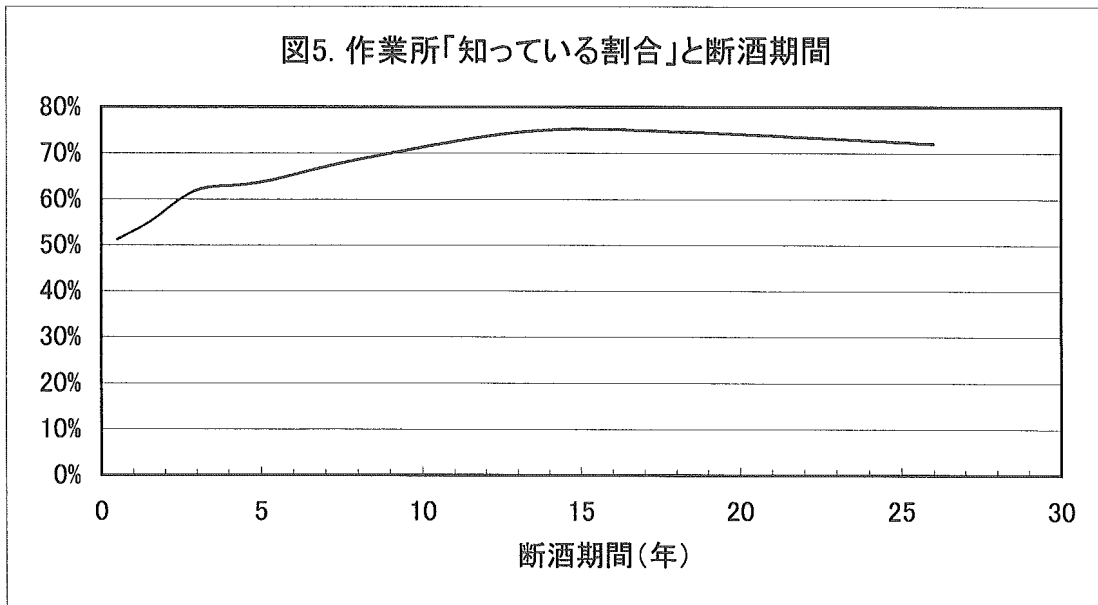


図6. 作業所を「知っている」人で作業所を利用したい人の割合、断酒期間別

